

信じて諦めず、新たな一歩を！ 「品格ある学校づくり—第3章—」最終ページ

校長 青野 保

本校生徒の御家族の御好意で校庭の樹木剪定をしていただきました。校長室から眺める景色も一層清々しくなり、早くも卒業式・入学式の準備が本格化してきた雰囲気です。学校は、多くの方々に支えられていることを再認識しています。

【膨らみ始めた校庭のコブシ→】



東日本大震災が発生したのは、今から12年前の3月11日です。来年度新入生となる子供たちが生まれた年で、現在の中学生にはほとんど記憶がないかもしれません。最大30メートルを越す津波が北海道から関東に及ぶ太平洋沿岸の町を襲い、数知れぬ人々と家屋を押し流しました。絶対安全と言われた原子力発電所も自然の猛威の前には余りにも脆く、被災地の多くはいまだに放射能汚染の危険にさらされています。風評被害も人々に更なる苦しみを与えました。

被災地・気仙沼市立階上(はしかみ)中学校の卒業式における卒業生代表・梶原裕太(かじわら ゆうた)さんの答辞の一部を紹介します。

「階上中学校といえば『防災教育』といわれ、内外から高く評価され、十分な訓練もしていた私たちでした。しかし、自然の猛威の前には、人間の力はあまりにも無力で、私たちから大切なものを容赦なく奪っていきました。天が与えた試練というには、むごすぎるものでした。つらくて、悔しくてたまりません。時計の針は14時46分を指したままです。でも時は確実に流れています。生かされた者として、顔を上げ、常に思いやりの心を持ち、強く、正しく、たくましく生きていかなければなりません。

命の重さを知るには大きすぎる代償でした。しかし、苦境にあっても、天を恨まず、運命に耐え、助け合って生きていくことが、これからの私たちの使命です。

私たちは今、それぞれの新しい人生の一歩を踏み出します。どこにいても、何をしようとも、この地で、仲間と共有した時を忘れず、宝物として生きていきます。」

震災に限らず、私たちは、それぞれの立場で踏ん張って知恵を出し合い、協力し合っ
て、しかも豊かな心を失うことなく難局を乗り越えてきました。新型コロナウイルスの感
染収束について明るい兆しはあるものの、いまだ予断を許せません。こんな時だからこ
そ、物事の本質を突き詰めて考え「品格」を身につけようとしている私たちは、12年
前のことを思い起こさねばならないと思います。

黒浜西中の生徒の皆さん、自分を信じよう、そして他人を信じよう。どんな時にも成
長することを止めないし諦めない。この1年間苦楽を共にした生徒の皆さんに強く訴
えて「品格ある学校づくり —第3章—」の最終ページとします。

関係の皆様には、1年間大変お世話になりました。今後とも本校への変わらぬ御支援
をお願いいたします。